

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディポジションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族のでいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

デーヴォ ガイド



2022.3.7-13

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

7日 月曜

ルカ

19:28 これらのことを話して後、イエスは、さらに進んで、エルサレムへと上って行かれた。

19:29 オリーブという山のふもとのベテパゲとベタニヤに近づかれたとき、イエスはふたりの弟子を使いに出して、

19:30 言われた。「向こうの村に行きなさい。そこにはいると、まだだれも乗ったことのない、ろばの子が見つからないのであるのに気がつくでしょう。それをほどこいて連れて来なさい。

19:31 もし、『なぜ、ほどこくのか。』と尋ねる人があったら、こう言いなさい。『主がお入用なのです。』」

19:32 使いに出されたふたりが行って見ると、イエスが話されたとおりであった。

19:33 彼らがろばの子をほどこいていると、その持ち主が、「なぜ、このろばの子をほどこくのか。」と彼らに言った。

19:34 弟子たちは、「主がお入用なのです。」と言った。

19:35 そしてふたりは、それをイエスのもとに連れて来た。そして、そのろばの子の上に自分たちの上着を敷いて、イエスをお乗せした。

19:36 イエスが進んで行かれると、人々は道に自分たちの上着を敷いた。

19:37 イエスがすでにオリーブ山のふもとに近づかれたとき、弟子たちの群れはみな、自分たちの見たすべての力あるわざのことで、喜んで大声に神を賛美し始め、

19:38 こう言った。「祝福あれ。主の御名によって来られる王に。天には平和。栄光は、いと高き所に。」



19:39 するとパリサイ人のうちのある者たちが、群衆の中から、イエスに向かって、「先生。お弟子たちをしかってください。」と言った。

19:40 イエスは答えて言われた。「わたしは、あなたがたに言います。もしこの人たちが黙れば、石が叫びます。」

旧約の預言どおりにイエス様はろばの子に乗って、エルサレムに入られました。歴史上この都の王になる者は誰もが、殺し合いと支配によって入りました。それとは全く対照的にイエス様は平和の王として、入城されました。それも馬ではなくろばに乗ってでした。平和をもたらずのに、戦いではないということでした。

イエス様はまさに平和の王であることを覚えて、日常生活でも、あくまでも平和を求めてゆきましょう。神様が愛の神である以上、平和を求めることが最終的には力になるのです。心しておきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 8日 火曜

ルカ

19:41 エルサレムに近くなったころ、都を見られたイエスは、その都のために泣いて、
19:42 言われた。「おまえも、もし、この日のうちに、平和のことを知っていたのなら。しかし今は、そのことがおまえの目から隠されている。

19:43 やがておまえの敵が、おまえに対して壘を築き、回りを取り巻き、四方から攻め寄せ、

19:44 そしておまえとその中の子どもたちを地にたたきつけ、おまえの中で、一つの石もほかの石の上に積まれたままでは残されない日が、やって来る。それはおまえが、神の訪れの時を知らなかったからだ。」

19:45 宮にはいられたイエスは、商売人たちを追い出し始め、

19:46 こう言われた。「『わたしの家は、祈りの家でなければならない。』と書いてある。それなのに、あなたがたはそれを強盗の巣にした。」

19:47 イエスは毎日、宮で教えておられた。祭司長、律法学者、民のおもだった者たちは、イエスを殺そうとねらっていたが、

19:48 どうしてよいかわからなかった。民衆がみな、熱心にイエスの話に耳を傾けていたからである。

イスラエルは不信仰の結果として、他国から侵略されましたし、この後もローマ帝国に蹂躪されました。その度に都であるエルサレムでは悲惨な出来事が起きたのです。イエス様は「泣いて」、この都とその人々を思ったのでした。

そのような不信仰の始まりは、神殿の状態に深く関わっていました。すなわち「祈りの家」であるはずのところ、**「強盗の巣」**のように、不正な金儲



けの場所になっていたのです。

神殿とは神様と民の接点です。礼拝の場所です。神殿で儀式は執り行われてはいましたが、民の信仰は崩れていたのです。私たちの礼拝のあり方、神様との接点のありかたはどうでしょうか。生きた神様の交わりとなっているのでしょうか。生きた交わりとは、生活の中でみことばが生きているということです。それは行動をもたらし、成長し、また宣教へとつながってゆくものです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 9日 水曜

ルカ



20:1 イエスは宮で民衆を教え、福音を宣べ伝えておられたが、ある日、祭司長、律法学者たちが、長老たちといっしょにイエスに立ち向かって、

20:2 イエスに言った。「何の権威によって、これらのことをしておられるのですか。あなたにその権威を授けたのはだれですか。それを教えてください。」

20:3 そこで答えて言われた。「わたしも一言尋ねますから、それに答えなさい。」

20:4 ヨハネのパプテスマは、天から来たのですか、人から出たのですか。」

20:5 すると彼らは、こう言って、互いに論じ合った。「もし、天から、と言えば、それならなぜ、彼を信じなかったか、と言うだろう。」

20:6 しかし、もし、人から、と言えば、民衆がみなで私たちを石で打ち殺すだろう。ヨハネを預言者と信じているのだから。」

20:7 そこで、「どこからか知りません。」と答えた。

20:8 するとイエスは、「わたしも、何の権威によってこれらのことをするのか、あなたがたに話すまい。」と言われた。

祭司長、律法学者、長老たちは神から与えられた権威ではなく、人の作り上げた権威によって生きていました。ですからその権威を守るためには、神であるイエス様に敵対することになってしまったのです。またその権威を守るためには、真理に即した回答をすることができませんでした。「どこからかしりません。」と言うしかなかったのです。

そのような人には真理を語っても意味がありません。イエス様は「あなたがたに話すまい。」と言われました。

本当の権威は神様から与えられるものです。それ

は神様を慕いあがめ、従う人に与えられます。そのような人になりましょう。人間の権威に頼ったり、それをういていたことに気づいたなら、またはそれを求めていたなら、悔い改めて主の権威の前にまずはひれ伏しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



10日 木曜

ルカ

20:9 また、イエスは、民衆にこのようなたとえを話された。「ある人がぶどう園を造り、それを農夫たちに貸して、長い旅に出た。

20:10 そして季節になったので、ぶどう園の収穫の分けまえをもらうために、農夫たちのところへひとりのもべを遣わした。ところが、農夫たちは、そのしもべを袋だたきにし、何も持たせないで送り帰した。

20:11 そこで、別のしもべを遣わしたが、彼らは、そのしもべも袋だたきにし、はずかしめたうえで、何も持たせないで送り帰した。

20:12 彼はさらに三人目のしもべをやったが、彼らは、このしもべにも傷を負わせて追い出した。

20:13 ぶどう園の主人は言った。『どうしたものか。よし、愛する息子を送ろう。彼らも、この子はたぶん敬ってくれるだろう。』

20:14 ところが、農夫たちはその息子を見て、議論しながら言った。『あれはあと取りだ。あれを殺そうではないか。そうすれば、財産はこちらのものだ。』

20:15 そして、彼をぶどう園の外に追い出して、殺してしまった。こうなると、ぶどう園の主人は、どうするでしょう。

20:16 彼は戻って来て、この農夫どもを打ち滅ぼし、ぶどう園をほかの人たちに与えてしまいます。」これを聞いた民衆は、「そんなことがあってはなりません。」と言った。

20:17 イエスは、彼らを見つめて言われた。「では、『家を建てる者たちの見捨てた石、それが礎の石となった。』と書いてあるのは、何のことでしょう。

20:18 この石の上に落ちれば、だれでも粉々



に碎け、またこの石が人の上に落ちれば、その人を粉みじんに飛び散らしてしまうのです。」

神様が遣わした預言者を信じないで、さらには御子イエス様までも受け入れない人々は、この悪い農夫たちを同じです。彼らは「財産はこちらのものだ」と、自分たちの貪欲のために神様に敵対する者たちなのです。

主を信じないで自分勝手に生きることも個人の自由であると主張する人もいますが、決してそうではありません。イエス様の敵対者は結局、イエス様を十字架にかけてしまったのです。

神様への敵対者がどのような存在であるか、理解しましょう。また自分自身のうちにそのような神を受け入れない貪欲がないかどうか、自己吟味しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのだの部分の主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



20:19 律法学者、祭司長たちは、イエスが自分たちをさしてこのたとえを話されたと感じたので、この際イエスに手をかけて捕えようとしたが、やはり民衆を恐れた。

20:20 さて、機会をねらっていた彼らは、義人を装った間者を送り、イエスのことばを取り上げて、総督の支配と権威にイエスを引き渡そう、と計った。

20:21 その間者たちは、イエスに質問して言った。「先生。私たちは、あなたがお話しになり、お教えることは正しく、またあなたは分け隔てなどせず、真理に基づいて神の道を教えておられることを知っています。

20:22 ところで、私たちが、カイザルに税金を納めることは、律法にかなっていることでしょうか。かなっていないことでしょうか。」

20:23 イエスはそのたくらみを見抜いて彼らに言われた。

20:24 「デナリ銀貨をわたしに見せなさい。これはだれの肖像ですか。だれの銘ですか。」彼らは、「カイザルのです。」と言った。

20:25 すると彼らに言われた。「では、カイザルのものはカイザルに返しなさい。そして神のものは神に返しなさい。」

20:26 彼らは、民衆の前でイエスのことばじりをつかむことができず、お答に驚嘆して黙ってしまった。

「カイザルのものはカイザルに返しなさい。そして神のものは神に返しなさい」とイエス様は回答なさいました。カイザルすなわちこの世の秩序に対しても責任を果たし、また神にも責任を果たしなさい

ということです。

では実際にはどちらに優先順位があるのでしょうか。ここでイエス様が前提となさっているのは、優先順位ではなく、その両立が可能であるということでしょう。社会の秩序と責任のために生きることは神様のためでもあります。また神様の救いを伝え、みこころを行うことは社会のためにもなるのです。

またお金に関して言うなら、神様の働きはお金で大いに力づけられますが、しかしお金で左右されるものではありません。次元が違うのです。主の栄光を表わしつつ、この社会の役にも立つ道を探り求めましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



12日 土曜

ルカ

20:27 ところが、復活があることを否定するサドカイ人のある者たちが、イエスのところに来て、質問して、

20:28 こう言った。「先生。モーセは私たちのためにこう書いています。『もし、ある人の兄が妻をめとって死に、しかも子がなかったばあいは、その弟はその女を妻にして、兄のための子をもうけなければならない。』

20:29 ところで、七人の兄弟がいました。長男は妻をめとりましたが、子どもがなくて死にました。

20:30 次男も、

20:31 三男もその女をめとり、七人とも同じようにして、子どもを残さずに死にました。

20:32 あとで、その女も死にました。

20:33 すると復活の際、その女はだれの妻になるでしょうか。七人ともその女を妻としたのですか。」

20:34 イエスは彼らに言われた。「この世の子らは、めとったり、とついたりするが、

20:35 次の世にはいるのにふさわしく、死人の中から復活するのにふさわしい、と認められる人たちは、めとることも、とつぐこともありません。

20:36 彼らはもう死ぬことができないからです。彼らは御使いのようであり、また、復活の子として神の子どもだからです。

20:37 それに、死人がよみがえることについては、モーセも柴の個所で、主を、『アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神。』と呼んで、このことを示しました。

20:38 神は死んだ者の神ではありません。生きている者の神です。というのは、神に対し



ては、みなが生きているからです。」

20:39 律法学者のうちのある者たちが答えて、「先生。りっぱなお答えです。」と言った。

20:40 彼らはもうそれ以上何も質問する勇気がなかった。

イエス様の敵対者は、この前はお金や社会的権威との関係で、イエス様を矛盾に追い込もうとしましたが、イエス様は全く違った次元で真理の回答をなさいました。今度は復活という信仰の問題で、イエス様の矛盾を引き出そうとしました。

ここでもイエス様は全く違う次元の答えをなさっています。すなわち永遠の御国では、この世のあり方からはるかに違うことがなされるのです。この世のあり方に制約されることはないのです。

ですからこの世の結婚に制約されることはありません。結婚はすばらしいものですが、永遠の御国での愛はそれをもはるかに凌ぐものだからです。御国における愛は完全なものだからです。

サドカイ人は復活を信じないので、このような質問をして復活の矛盾点を突こうと試みたのですが、イエス様は「神は死んだ者の神ではありません。」と言われました。つまりアブラハムもイサクもヤコブも、神のもとにおいて生きているということです。

歴史上これまでに多くの論客が神様の救いと真理を論破しようと試みましたが、主はそれをことごとく砕かれました。そしてそれ以上の愛で、多くの人がイエス様を信じるに至ったのです。

主の真理に対して、確信と誇りを持ちましょう。また反論する人には穏やかに、愛を持って真理を語りましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



20:41 すると、イエスが彼らに言われた。
「どうして人々は、キリストをダビデの子と
言うのですか。

20:42 ダビデ自身が詩篇の中でこう言ってい
ます。『主は私の主に言われた。

20:43 「わたしが、あなたの敵をあなたの足
台とする時まで、わたしの右の座に着いてい
なさい。』」

20:44 こういうわけで、ダビデがキリストを
主と呼んでいるのに、どうしてキリストがダ
ビデの子でしょう。」

20:45 また、民衆がみな耳を傾けていると
きに、イエスは弟子たちにこう言われた。

20:46 「律法学者たちには気をつけなさい。
彼らは、長い衣をまとって歩き回ったり、広
場であいさつされたりすることが好きで、ま
た会堂の上席や宴会の上座が好きです。

20:47 また、やもめの家を食いつぶし、見え
を飾るために長い祈りをします。こういう人
たちは人一倍きびしい罰を受けるのです。」

ダビデは理想とされる王でした。彼は自分の子孫
から救い主が生まれることを感じ取り、このように
子孫を「主と呼んで」いるのです。イエス様は人と
して来られたから、すなわち誰かの子孫としてこの
世に誕生したのですから、それは必然です。

ダビデは自分の子孫でも、神の権威を認めました。
私たちは神の働きや神の立てた働き人に対しては、
自分よりも目下のものであっても、その権威を認め
る必要があります。それは神様を主とする行為であり
祝福の条件でもあります。

それに対して律法学者は、あくまでも自分が目上
であり権威となりたがっています。「気をつけなさい。」とイエス様が言われるように、私たちが気を
つけましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の
約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願ひ
など）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのど
の部分の主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

